



# APAY eNews

抄訳: 永岡美咲(日本YMCA同盟)

## フィリピン台風被災地支援 活動報告

Eloisa Borreo

アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)はフィリピンYMCA同盟と密接に連携しながら、フィリピン各地でのYMCA災害救援・復興支援活動を組織、計画、実施しています。セブYMCAはレイテ島オルモックおよびセブ島北部のダーンバンタヤン地区、イロイロYMCAはコンセプション地区タンバリザで活動を行っています。セブYMCAはレイテ島オルモックの2棟の建物の再建を計画しています。1棟は3部屋のコテージで、うち1部屋はYMCAの連絡調整機能と幼稚園が入り、残りの2部屋は被災者用の避難施設となる予定です。もう1棟は3部屋からなる長屋式住宅で、被災した家族用の避難施設となる予定です。

また、イロイロYMCAでは、12月16日のワークショップ/企画会議で、ニーズの見積もり、評価と優先順位づけが行われました。見出された最優先事項は生活再建であり、その理由は漁民が最も多いからでした。漁船、網、その他漁業に必要な用具がすべて壊されてしまいました。農場での活動に必要なものは、穀物の栽培と養豚、その他は地元での収穫を売買するためのものです。第2の優先事項は小学校・中学校の屋根の修理、机や椅子の供給、他の学用品の配布です。ほとんどすべての家や避難施設が破壊されてしまったので、復興への支援は人々の回復と日常生活への復帰が最も優先されます。このコミュニティには電気がないので、ソーラー式の電灯が必要です。上記の支援活動は、社会が何を必要としているか、どのような方向性で動いているのか考え、さまざまな関心や特徴を持ったグループのために組織、計画と研修を行うプロセスを経て実行されます。フィリピンYMCA同盟と各YMCAのスタッフは、いのちと生活の復興・再建に向けて、迅速性のみではなく、住民への利益を優先させたアプローチで効果的な戦略を見出しなが

ら、地元の人々とともに、働きをっていきます。

APAYには、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、バングラデシュ、ミャンマー、香港、マカオ、マレーシア・ペナン、シンガポール・メトロポリタン、台湾、アルゼンチン、デンマーク、ドイツ、オランダ、アメリカ・ニューヨークのYMCAから総額60,964 USドルが寄せられました。また、Yサービスクラブ(ワイズメンズクラブ国際協会)やオランダ、スイスの個人、第31回アドバンス・スタディーズの研修生からも寄附が寄せられました。Yケア・インターナショナルからは、直接フィリピンYMCA同盟に送金され、緊急支援・救援活動に用いられています。レイテ島オルモックでの建物再建と、コンセプション・イロイロでの生活再建、住居や学校の再建、その他には、総額104,310 USドルが必要です。

世界中のYMCAからの寛大な寄附や支援に心よりお礼申し上げます。甚大な被害を受けた人々の生活再建は長い道のりですが、皆様のご寄附によってこのような困難に立ち向かうことができます。皆様に感謝申し上げます。

日本からは、全国のYMCAおよびワイズメンズクラブより寄せられた910万2343円(3月25日現在・振込予定含む)のうち300万円と、神戸市社会福祉協議会からの914万9343円の支援をAPAYに報告しています。



## YMCAワールド・チャレンジ 2014

Roger Peiris

ワールド・チャレンジ 2012 では、85 か国でYMCAIにかかわる 432,000 もの人々が、2012 年 10 月 13 日、YMCAが何千ものコミュニティーでたくましく存在していることを初めて一斉に世界中に広めました。私たちは、ひとつの声を持つ、ひとつのまとまった運動体であることを証明しました。2014 年 6 月 6 日、YMCAは 170 年間にわたるその働きを祝います。119 か国のYMCAがともに手を取り合いながら、今年の 6 月、2012 年と同じようなチャレンジをするのです。YMCA が 170 年間にわたって、世界中でどのように多くの若者をエンパワーしてきたかを示す、またとない機会になるでしょう。

ワールド・チャレンジ 2014 では、世界中のYMCAIにて、コミュニティーのすべての人に開かれたイベントを企画します。APAY では、6 月 6 日を中心に、6 月 5 日～8 日に各YMCA でのイベントを行います(それぞれのYMCAの事情や要望を考慮するため、6 月 5 日～8 日に行われたイベントをYMC Aワールド・チャレンジの一環とします)。

2012 年のワールド・チャレンジでは、すべてのイベントに共通する要素として、バスケットボールのシュートが行われました。今回のワールド・チャレンジ 2014 では、新たな活動(スポーツのイベント、教育セミナー、環境に関する活動)を企画してもよいですし、現在行われている活動を行うこともできますが、活動の参加者から「ユース世界宣言(Global Declaration for Youth)」を支援する旨の署名を集めることを目的とします。2014 年のワールド・チャレンジでは、各イベントと参加者が、「ユース世界宣言」に署名するのです。YMC Aがユースを支援するという、シンプルで短く、また簡単な宣言に、ワールド・チャレンジ 2014 の世界中の参加者が署名するのです。また、YMCAが環境にやさしい団体であることを示すため、APAY では、ワールド・チャレンジ 2014 で「グリーンな(環境に配慮した)」イベントを広めたいと考えています。このような動きは、世界から注目されます。皆さんのYMCAで最もすばらしいプログラムを行うことで、それを世界に示すチャンスとなるでしょう。

ユース宣言は、現在の各地、各国、世界における若者に

対する政策の発展に影響を与え、社会の若者のニーズや活発な役割の重要性を示すものです。また社会のあらゆるレベルで若者の声に耳を傾けることの必要性を強調し、世界中のYMCAが社会運動として力を結集していることを示すことになるでしょう。

これまで、現在も、そしてこれからも、YMCAがユースとともに、そしてユースのために存在することを、世界に示しましょう。世界YMCA同盟が「ユース宣言」に集められた署名の数をカウントします。

皆で眠れる巨人を起こしましょう。世界中で行動を起こすとき、あらゆるレベルでYMCAは目を引く団体となるのです。そうすれば、YMCAが世界で若者について先進的な取り組みをしている団体であると世界から認識されるでしょう。



## 「百万人の声」調査プロジェクト



世界YMCA同盟は、若者の「生活の質(Quality of Life)」向上を目指し、各地のコミュニティーから世界規模の場へとユースの声を拾い上げるプロジェクトを開発しています。世界YM

CA同盟に加盟する 119 か国のYMCAとともに、世界YMCA同盟は「百万人の声」調査プロジェクトという名称で、世界を変えるために地球市民の意見調査の実施を計画しています。

「百万人の声」調査プロジェクトは、15 歳～24 歳の若者が、自分たちの置かれている状況についての考え方、個々人ま

た若者全体としての意見がどのようなものであるかを理解するために行われるプロジェクトです。このプロジェクトでYMCAは、ユースの雇用、健康、市民参画、環境に関する声を聞き、世界規模での政策に影響を与えるため、社会公正の課題、バリア、機会についてユースの見方を理解するのに貢献します。このプロジェクトの質問票は、回答者自身が回答する形式と、インタビュアーによるアンケートという2つの形式を用いて、時宜に適した情報が収集できるよう、デザインされています。調査は各国YMCAレベルで行われますが、各地のコミュニティでは、世界規模のプロジェクトとして60か国で20万人を超える若者に対して行われます。若者に直接かかわりを持つことができるよう、質的アプローチも行われる予定です。

この調査から得られるであろう考察は、個人、家族、社会における若者個人および若者全体としての志向や、現在および未来の志向を見出すのに重要な意味を持ち、このプロセスの成果は、あらゆる青少年団体の方針や活動の実施に役立てられるものです。新たなプログラム作成やユース・エンパワーメントを推進する人に刺激を与えるものとなることを願っています。

APAYは、アジア・太平洋地域の各国YMCAに対し、積極的にこのプロジェクトへの参加を要請し、成功に導きたいと考えています。私たちYMCAが世界において代表的な青少年団体としての立ち位置を確立し、現在のユースが抱える課題や希望に応える努力が可能になるでしょう。

## 平和学校(スリランカ)

Bruce van Voorhis

2006年、宗教間平和フォーラム(Interfaith Cooperation Forum: ICF)が平和学校(School of Peace)を開始した当初は、平和学校のプログラムはアジア中の参加者に開かれ、インドで14週間にわたり行われていました。2013年にプログラムのフォーマットと参加者の条件を変更してからは、アジアの同じサブリージョンからの参加者を対象に、カリキュラムを2つの部分に分けることになりました。

この新たな形式のもとで行われた、2013年8月にスリランカ・パムヌガマで行われた南アジア・サブリージョンの平和

学校の最初の2つのモジュールは、バングラデシュ、ネパール、スリランカの活動家に東ティモールからの参加者2人を合わせ10人が参加しました。



その後、参加者は2か月の休暇の間、最初の2つのモジュールで学んだことを各自のコミュニティで実践にうつしました。その後、3つ目のモジュールは2014年1月7日

からスリランカ東海岸のバティカロア近郊のカラルで始まりました。第3モジュールでは、コミュニティの組織運営、写真撮影やその他、変革や傾聴のためのツールや、紛争に対応するために重要なスキル、またトラウマを経験した人々に向き合う方法、権力と権力がなく、ジェンダー、抑圧、武器の取引、民主的な経済に関連するセッションに焦点が当てられました。また、長く続いたスリランカの内戦で被害を受けた地域にも訪問しました。

南アジアでの平和学校の最後のモジュールも、ICF コーディネーターのMax Ediger氏が行います。

## マレーシアYMCA同盟、新総主事就任



Cheryl Lee氏は、自身の信仰を人生を変革するような「より良い世界をつくる」活動で実践したいと望んで、1996年にビジネスの世界から転身した熱心なカトリック教徒です。2000年にフィリピンのEast Asian Pastoral

Institute(東アジア司牧学院)に入学し、2002年にアテネオ・デ・マニラ大学で司牧学修士課程を修了しました。

Lee氏は、教会と市民社会を導き、HIV/AIDSと生きる人々、先住民族、弱い立場の女性や子ども、都市の貧困層の人々、移民や難民とともに歩んできました。また、人間開発についてマレーシアおよびクアラルンプールの大司教区事務所でも奉仕してきました。マレーシアYMCA同盟の総主事になるという神の召命を受ける前は、UNHCRでクアラルンプールのミャンマー系移民の子どもたちを教えるボラン

ティア教師であり、また Federation of Asian Bishops' Conferences(カトリックアジア地区司教団)のレイパーソン・人間開発事務所にてリソースパーソンでもありました。また、Bishops' Conference of Malaysia, Singapore and Brunei(マレーシア・シンガポール・ブルネイ地区司教団)で、移民やホームレスの人々へのパストラルケア委員会にて組織関連のコンサルタントを務めました。

Cheryl は、自然に囲まれること、読書、音楽鑑賞、旅行、人々や文化に触れることで活力を得ています。素晴らしいパートナーがいるチームとともに、YMCAファミリーを通して神の国を創るというミッションを、取り組んでいきたいと考えています。

**総主事デスクより～2014年のハイライト**  
**APAY 総主事 山田公平**

2014年のAPAYにおけるハイライトを、3つの点に分けてお話しします。



**1. 各国YMCAトップリーダーシップ対象研修および交流会 (APAY 常務委員会関連行事・香港)**

戦略計画の中間評価を行った後、APAYの優先事項としてリーダーシップ開発の必要があると気づきました。そこで、3月5日からの常務委員会に先立ち、レイ・リーダーシップ会議を行いました。3月4日には、世界YMCA同盟前総主事 Bart Shaha 氏、世界YMCA同盟現総主事 Johan Vilhelm Eltvik 氏をお招きし研修を行い、3月5日には、APAYユース委員会による研修を行いました。

**2. 地球市民研修(Global Citizenship Institute: GCI) (インド)**

今年5月、地球市民育成に関する研修を2週間にわたって行います。地球市民育成は、YMCAがユース・エンパワメントを行う団体であることの核となるものです。いくつかの国ではすでに地球市民育成の試みが行われてきましたが、各地のYMCAにおいては十分でないと感じています。それぞれのコミュニティには多くの問題があり、若者はそれを何とかしなければならないと感じています。しかし、誰によって、どのように行われるべきなのでしょう？ 若者は、自分たちの優先事項ではないと感じているかもしれま

せん。そこで、若者のためのユニークな宣教活動として、各地のYMCAがその役割を担うべきだと思うのです。若者には、コミュニティの課題を学び、困難な状況にいる人々の現状を理解してほしいと思っています。そして、自らのアクションの計画を立ててほしいと思います。より多くのユースのみならず、シニアをも巻き込み、若者のアイデアやアクション・プランを支援してください。これが、私たちの目指す「地球市民アプローチ」です。CGIはスタッフにとっても、よい機会となるでしょう。

**3. 各国レベルでの研修**

2013年には、さまざまな課題・プログラムに関するワークショップを各国YMCAにて行いました。研修で取り上げられた主なテーマは、グリーン・アンバサダー(環境大使)、オルタナティブ・ツーリズム、ジェンダー・メインストリーミング、災害の予防・対策とリスク削減、宗教間協力、リソース・モビリゼーション等でした。アジア・太平洋YMCA同盟では、上記のことをテーマにした研修が行われています。今後は、各地のYMCAでも、実際に上記のテーマに関する活動が行われるよう働きかけるべく、各国YMCAレベルでの研修を行う時期にきています。アジア・太平洋地域の各地にあるYMCAこそが、YMCAのミッションを実現する場だと信じています。各国YMCA同盟、各地域YMCA同盟と世界YMCA同盟は、各地のYMCAの味方です。APAYでは、40人のグリーン・アンバサダー(環境大使)が研修を受けました。災害対策ワークショップが2回行われました。現在までに12か所のオルタナティブ・ツーリズム施設が設立されています。さまざまな国で平和学校が行われました。そして、6か国のYMCAでリソース・モビリゼーション研修が行われました。各国YMCA同盟を通して、各地のYMCAを本当の意味で広めるため、次のステージに進みましょう！

発行元  
アジア・太平洋YMCA同盟  
Asia and Pacific Alliance of YMCAs  
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong  
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692  
e-mail: office@asiapacificymca.org